

「平和大通りに咲く赤い花」

— 被爆80年、『亜国日報』から読み解く広島とアルゼンチンの絆 —

相川 知子

(ブエノスアイレス市立外国語大学

フアン・ラモン・フェルナンデス校レングアスビバス 教師)

1. 赤い花と平和の街

広島市の平和公園前を走る平和大通りの並木の中に赤い花を咲かせる木、アメリカデイゴがある¹。アルゼンチンの国花で、スペイン語では「セイボ」と呼ばれている²。広島とアルゼンチンを結ぶ、平和と友情の象徴である。

平和大通りには世界各国から贈られた樹木が植えられており、約90種類、2千本以上にのぼるといふ。筆者が子どもの頃、広島では「75年間は草木も生えない」と言われていたが、被爆樹木からの新芽は人々にとって希望の光となり、世界中から贈られた種や苗によって、広島は緑豊かな街へと生まれ変わっていった、と学んだ。そのような記憶を持つ筆者にとって、アルゼンチンに移住してから、広島市のホームページ³に「昭和28年アルゼンチン大統領夫人エバ・ペロン氏⁴からアメリカデイゴが贈られた」と記されているのを見つけたのは大きな喜びであった。

2. 事実の再構成：セイボの種子はどこから来たのか

NGOファンダシオンサダコ⁵として広島のメッセージを伝え平和文化教育活動を続ける中、ある日フェイスブックを通じて広島の人から「エビータ⁶は1952年に亡くなっているのに1953年にアメリカデイゴを寄贈とはどういうことか」と問い合わせがあった。

¹ 写真アメリカデイゴの大木 (2022年6月5日広島市渡部正明氏撮影・提供)

² 写真アメリカデイゴ(セイボ)の花 (2022年6月5日広島市渡部正明氏撮影・提供)

³ 現在その該当ページはインターネット上に存在しない。<https://www.city.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/19989.pdf>

⁴ エバ・ペロンの正式名はマリア・エバ・ドゥアルテ・デ・ペロン (María Eva Duarte de Perón、1919年5月7日 - 1952年7月26日) 1946年から52年までフアン・ドミンゴ・ペロン大統領夫人

⁵ FUNDACION SADAKO <https://www.facebook.com/fundacionsadako/>

⁶ エビータはエバ・ペロンの愛称

確かに、当時のペロン大統領夫人エビータは1952年7月26日に死去した。この寄贈の記録と矛盾していた。一方、1951年10月2日付の中国新聞⁷は、亜国日報を通じてアルゼンチンから種子40種が星光丸で届けられたと報じている。エビータから贈られたセイボもこれと同じ寄贈かそれとも別なのか。

2024年アメリカサイカチが倒木した際も、エビータから贈られたと報じられた⁸。贈呈時期が近く他の植物も含めて届けられていた可能性が高いと感じた。

エビータは戦後の日本への救援物資を送ったことで知られている。また、在アルゼンチン日本人会を訪問したり、日本人移住者がキリスト教の洗礼を受ける際には後見人を務めたりなど、日本人社会との交流を積極的に行っていた。支持を集めるためだったという見方もある。日本人には選挙権がなかったので、アルゼンチン生まれでアルゼンチン国籍もある日系二世に印象をよくするためだったのか。その必要性はなく純粋な善意の表れとして語られることも少なくない。また、政府内にも日系二世の要人を抱え、公邸では日本人の使用人もいたと聞いている⁹。ペロン大統領夫妻は、特に日本人に対して特別な思いを抱いていたようだ¹⁰。勤勉で誠実な日本人移住者は、アルゼンチン社会では好意的に受け入れられており¹¹、戦争の動向や原爆投下の報道はアルゼンチンでも即座に伝えられ¹²、多くの人々が深い同情を寄せた。

⁷ 写真中国新聞切り抜き（広島市渡部正明氏提供）広島ピースメディアには <https://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=26365> 1951年10月2日ブエノスアイレス市の亜国日報社長宮地勝夫氏から中国新聞に届いたアルゼンチンの種子40種を広島市長へ手渡す とある

⁸2024年6月25日付中国新聞 平和大通り 倒木相次ぐ 1年余で3件 支柱補強後も <https://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=142524>

⁹ 当時は日系二世の公務員や日本人職人が働いていた『らぶらた報知』の高木一臣主幹（2015年没）によると、大統領の指示どおり日本人庭師が植物の移動をしないので叱ったら「庭の草木については私、専門家に任せてください。何年も先を見て仕事をしています」と譲らなかつた頑固さも逆に気に入られた理由という

¹⁰ブエノスアイレス州の日本人経営カフェトキーヨーで働いていたのが伝説のアルゼンチン大統領夫人となったエバ・ドゥアルテこと後のエビータとも言われている<https://www.brasilnippou.com/2024/241115-41colonia.html>

¹¹日本人が拾ったお金を返してアルゼンチン社会では新聞ニュースになったし、日本人の洗濯屋ではポケットに財布を入れたまま出した上着がそのまま戻ってくるという正直さが評判を高めた

¹² 1945年8月7日El Litoral 誌にて広島原爆投下で壊滅と報道 <https://www.santafe.gov.ar/hemeroteca/diario/20800/>

1945年8月28日Clarín 誌にて長崎は原爆投下後今も燃えていると報じるhttps://www.clarin.com/sociedad/pasaba-Argentina-lanzo-Clarín_0_H1axlTNjPXl.html

3. 記憶と記録を探して

アルゼンチンは中立国だったため、他の南米諸国のような日系社会への厳しい仕打ちはなかったが、戦時中は日本語の使用が認められず、日本人会、日本語学校の閉鎖に加えて邦字新聞の発行も禁止された。戦後、1947年に『亜国日報』が創刊され、1948年には『らぶらた報知』が創刊された¹³。日本語での伝達活動という新聞は遠く離れた日本のニュースを知る手段として重要であり、スペイン語の理解が十分でない日本人移住者にとって、アルゼンチン社会の様子を知るための手がかりでもあった。また邦字新聞は、広大なアルゼンチンで離れて暮らす日本人同士の通信手段であり、情報源であり、「心のよりどころ」でもあった。現地での生活情報を伝え、母国との絆を保ちつつ、アルゼンチン社会という異文化との共生についての言説が交わされる場でもあった。

私がアルゼンチンに到着した1991年にはすでに戦後移住者が多く、デカセギブームの影響で、日本語を話せる者が減少してきた時代であった。仕事では91年から94年、アルゼンチン各地に24校ある日本語学校を取りまとめる機関で活動していたので日系社会とは密接であった。日常では、ティントレリアと呼ばれるクリーニング店を営するも、娘が日本へ行って寂しい、周りに日本語を話す人がいないし、日本の話を聞きたいと、お店の奥にあるご自宅に招かれた機会が多くあり、御馳走にもなり、さまざまな話を聞くことができた。また、両新聞社の人達とも懇意にさせていただいた。それでも、広島への国花セイボの寄贈について誰からも聞くことがなかった。広島復興後援会が義援金活動をし、そこから広島出身の「がんす会」に発展したことや在アルゼンチン邦人からの寄付は中国新聞にも広島県庁にも記録がある¹⁴が、樹木寄贈の記録はなく、当時を知る人もすでにいなかった。現在の広島県人会には、子どものときに親に連れられて家族移住で来た一世がいるが、幼少だったため詳しい話は伝え聞いて

¹³らぶらた報知はアルゼンチンへの移住者の大部分を占める沖縄県系の人達が主体になった新聞だった。亜国日報は内地（本州）向けと言われたこともある。亜国日報は1991年末廃刊

¹⁴ 1951年6月26日付中国新聞では「アルゼンチンの広島県人会が集めた広島復興資金67万8,875円を広島市に寄付したとあるが、実際に寄付集めをしたのは1946年組織日本被災者救恤委員会内の広島復興後援会であり、そこから広島出身者の集まりが生じ、1951年（昭和26年）6月23日森田一宅で「がんす会」が創設。後に在亜広島県人会という名称に変更。 <https://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=26361> 戦時中の在亜日本人会の活動の政府干渉から完全再開の状態ではなかった

いないという。高齢となった二世の世代も、親が定住に向けて忙しく働いていたため、昔のことを詳しく聞く機会も少なかったようだ。ましてや、戦後移住者とその子孫が大部分を占めるため、当時のことを知る人もその記録もない。2023年11月の恒例ピクニック¹⁵や2025年1月5日の新年会でたずねてもわからず、広島出身の在アルゼンチン日本大使は被爆80年を目前にブエノスアイレス原爆平和展を主催した¹⁶が、「そのような話は聞いたことがない」という答えだった。

当時、新聞記者や新聞に論説を寄稿していた方々の子孫にもたずねた¹⁷が、伝承されていなかった。私がアルゼンチンに移住したばかりのとき聞いていればと後悔しても結局、この時代のことを知る人はすでに他界していた。アルゼンチン日本人移民史には詳細にわたってペロン夫妻と日本の関係について特別に言及がある¹⁸にも関わらず、この「エビータの木」については掲載されていなかった。そのため、邦字新聞の記録を調べることが、寄贈者や時系列の疑問などを解決する唯一の手がかりだと考えられた。

4. 邦字新聞が伝えた記録

2025年の夏、1月から3月、在アルゼンチン日本人会内日系社会史料館¹⁹に通い、マイクロフィルム化された『亜国日報』²⁰を読み進めた。まず、平和大通りの樹の冊子²¹に1953年寄贈の記載により、1953年から1954年の新聞を調べた。

¹⁵ 2023年11月在アルゼンチン広島県人会ピクニックの様子https://www.instagram.com/p/C1NrjtG0q8B/?img_index=1

¹⁶ 2025年2月20日中国新聞 被爆80年「できることを」府中出身の駐アルゼンチン大使広島市長と面会考え伝える <https://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=149484>

¹⁷ 『らぶらた報知』創設者の一人上原清利美のホームページ（長女エレナさん作）<https://elenauehara.com.ar/>

¹⁸ アルゼンチン日本人移民史編集委員会発行「アルゼンチン日本人移民史」（2006）序章第四節98ページ「ペロン大統領と日系社会」

¹⁹ スペイン語名はArchivo Histórico de la Colectividad Japonesa en la Argentina（在アルゼンチン日本人会内 <https://www.instagram.com/asociacionjaponesa/>）小那覇セシリア館長 <https://www.facebook.com/profile.php?id=100069674801413>

²⁰ すでに亜国日報社経由で手がかりがあり、また日本の国立図書館のおかげでマイクロフィルム化されていて閲覧が可能であったため

²¹ 写真 平和大通りの樹の会のしおり 平和大通りの樹（2019）平和大通り樹の会・広島市竹屋公民館 全ページはこちらのPDF にあるhttps://drive.google.com/file/d/1ju_DX1GeRSMYr1L08_iG5REMWP1fSW_2/view?usp=sharing

1954年新年の挨拶としてペロン大統領の日本人へのメッセージが巻頭掲載。その際1953年に行った在アルゼンチン日本人会訪問や、日亜通商協定などの日本関連事業が列挙されていたが、セイボ寄贈の言及はなかった。特に注目したのは、中国新聞が種の引き渡しを報じた1951年10月2日前後に記事があるかだった。それに先立つ9月21日付中国新聞²²には、広島で計画されていたアルゼンチン公園の建設についての記事があり、エビータの来日計画についても写真付きで紹介されていたからだ。マイクロフィルムの都合で今度は1950年から読み始めた。解像度が低く、プロジェクターのレバーを手で回し、焦点を合わせながら探するため読みづらく、薄い印字で小さな字のため²³、スマホで写真に撮り拡大して読んだ日々もあった。それでも、読み進める中で日系社会と大統領府との関係が浮き彫りになった。ペロン大統領夫妻の動向や特に大統領府での日系社会500名の謁見の行事の企画、詳細、取りまとめや、エビータの体調不良からの計画変更だけではなく、人々が回復を祈る記事もあった。その中で、邦字新聞自体が行事のプロデューサー的な存在という重要な役割を果たしていたことが理解できた²⁴。1951年と1952年新年号にもペロン大統領とエビータからの新年の挨拶がスペイン語に日本語訳が付けられ掲載されていた²⁵にもかかわらず、寄贈の話はなかった。

5. 邦字新聞に記された真相

しかしながら、さらに読み進むと、1952年1月2日付二面全部に、大きく「亜国原産種子40種が届き」²⁶と詳細が載っていた。社長の宮地勝夫氏が長崎に贈られた「ルハンのマリア像」²⁷と同様に広島にも国際平和のために何かしたいと、広島復興後援会の後援を得て計画を進めたという。農務省と相談して緯度など環境に合った種子を選択し、それを受け取り、エビータ名義にしようという段取りで星光丸に託した。40種の

²² 写真 昭和26年9月2日付中国新聞

²³ 写真 マイクロフィルム機械（在アルゼンチン日本人会内日系社会史料館）

²⁴ 他にもブエノスアイレス市公園課で植物研究会を開催 日本人の関係者、園芸業組合などを招待した

²⁵ 写真2枚 昭和27年1月2日付亜国日報一面（在アルゼンチン日本人会内日系社会史料館）

²⁶ 写真 1952年1月2日亜国日報（在アルゼンチン日本人会内日系社会史料館）

²⁷ ルハンのマリア像（浦上キリシタン資料館）<https://www.facebook.com/photo?fbid=1566833496866353&set=a.1516878721861831>

種子を中国新聞社に届け、渉外担当者から1951年10月に広島市長に受け渡すことができた経緯が詳細に記されていた。一部の種は時期的に採取が間に合わなかったが、日本の春の初めにまくことが推奨される種子があったため、まず3月に間に合うように届けられ、結果として10月初めに広島に届いた。濱井広島市長が受け取る写真もあった。記事の後半には、広島に贈られたうち代表の植物7種の特性が紹介されていた。

1. セイボ 2. ハカランダ 3. ティパ 4. パロ・ボラッチョ 5. ティンボ 6. モージェ 7. パタデブエイ、いずれもブエノスアイレス市民には御馴染みで現在も街を彩る樹木の名が並び、その解説が記されていた。十七町歩に計画しているアルゼンチン公園を作る規模には40種類は十分であったという。さらに東京大学と京都大学で種が育てられることになっており、愛知の安城農林高校は五十周年記念で同じように種子が送られた。アルゼンチンでは日系社会の花卉栽培のリーダー的存在の賀集農園と猪狩農園で育成調査が行われるという。こうして、伝説のエビータの種が記録として確認された。

この事実から、広島の記録には時系列には誤記もしくは記憶のずれがあるように思われる。例えば、1951年10月が本来の記載すべき受け渡し年だったのに誤って1953年として残ったのは年号の昭和26年なら28年と誤記した可能性がある。または、育苗をして植樹が1953年なので「1953年にエビータが贈った木」として記憶された可能性が考えられる。記録と記憶の齟齬、そして印象的な“贈り主”のセイボの木をめぐる物語を確認することができた。広島市国際関係へ問い合わせたが古い話で資料が残っていないという回答であった。あってもなくても、これから倒木があろうとも、その記憶を大切にすれば、そこに込められた平和の祈りは生き続ける。その記憶を重要視し記録し直す使命を改めて感じた。

6. 記憶と希望をつなぐ花

広島の再建と復興を願い、地球の反対側から届けられた平和と友情の象徴。それは、アルゼンチン政府から提供され、『亜国日報』の宮地勝夫氏がイニシアチブを取ったが日系社会の人々によって後援されて実現した贈り物だった。それが、今も平和

大通りに咲く、赤い国花セイボの木であり、その一つ一つの花は集まり大きくなり、より美しく見える。

また、一方で、平和大通りの本格的な植樹は、1955年以降に始まったとされている。1957年には供木運動が展開され、国内外から多くの樹木が集められた。「アルゼンチン公園」構想の行方は不明であるが、アルゼンチンから届けられた種から育つたとみられる樹木は、現在のセイボや倒木したアメリカサイカチが育つた鶴見橋付近だけでなく、平和公園やその周辺にも残っている可能性がある²⁸。近くの市立竹屋小学校では、子どもたちが樹木に看板を付け、思いを掲示し、受け継いでいるという²⁹。広島・長崎被爆から80年を迎えているにもかかわらず、世界が再び核兵器使用の脅威に直面している今だからこそ、平和とは一人ひとりの心にまかれる「種」から育つものだと伝えたい。だからこそ、過去の記憶を丁寧に掘り起こし、記録し、広める意義があると思う。

今回『亜国日報』のアルゼンチンの種の寄贈の記事を通じて新たに確認できたのは、1951年でも1953年という記述であっても、広島の1957年供木運動に先立って、世界で最も早く「平和と友好の種」が地球の反対側のアルゼンチンから届けられていたという事実である。それが、アルゼンチン国花セイボをはじめとする種子であった。

70年以上の時を経て、その木が倒れるのであれば、私たちは再びその志を思い起こし、あらためて「地球の反対側からの平和と友情の種」を広島の地に送り、未来への希望としてまき続けたい。

²⁸写真 アルゼンチン原産種40種の一つか ヤシの木が平和大通り付近にある

²⁹写真 在りし日のアメリカサイカチ・子どもたち手作りの看板（2022年6月5日広島市渡部正明氏撮影・提供）

1. 鶴見橋付近アメリカデイゴの木



2. アメリカデイゴ（セイボ）の花（広島市渡部正明氏提供）



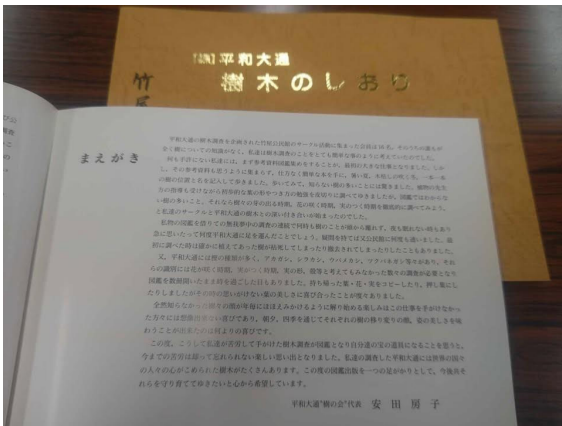
7. 昭和26年10月3日付中国新聞「届いたアルゼンチンの種子 念願かなうと濱井市長大喜び」アルゼンチン公園に言及



21 平和大通りの樹木のしおり 平和大通り樹の会・広島市竹屋公民館

(広島市渡部正明氏提供)






4月10日(水)	平和大通り(鶴見橋～平和記念公園) 集合 9:00 竹屋公民館
5月8日(水)	ひろしま自然学校 集合 8:45 バスセンター 7番乗り場
6月12日(水)	平和大通り(新己斐橋～緑大橋) 集合 10:00 西区役所前
7月10日(水)	広島県緑化センター 貸切バス(申込要) 集合 8:30 NHK前 (弁当、飲み物、雨具)
9月11日(水)	比治山公園 集合 10:00 第3駐車場 (電車通りから交番横を上がり三叉路右奥)
10月9日(水)	平和大通り(白神社～鶴見橋) 集合 10:00 白神社前
11月13日(水)	平和大通り(鶴見橋～平和記念公園) 集合 10:00 鶴見橋西詰
11月24日(日)	秋の樹木探索の集い(主催:竹屋公民館) 集合 9:15 西区役所 (～平和記念公園)
12月11日(水)	平和大通り(平和公園～緑大橋) 集合 10:00 平和公園
1月8日(水)	平和大通り(鶴見橋～平和記念公園) 集合 9:00 竹屋公民館
2月12日(水)	平和記念公園～サッカースタジアム 集合 10:00 平和記念公園
2月12日(水)	平和大通り(白神社～鶴見橋) 集合 10:00 白神社前

※案内での観覧は、午前7時のNHKの天気予報で降水確率が40%以上の場合は中止いたします。
※4月及び1月は、定例観覧(観覧)の前日に竹屋公民館で打ち合わせを行います(雨天決行)。
※変更する場合はありますので予めご確認の上ご参加ください。

平和大通り 樹の会

平和を願い贈られた皆さんの樹木
まるで街中の植物園です
四季折々の変化を一緒に
観察しませんか！



お問合せは

- ・被爆者の森整備
平成2年、被爆45周年にあたり、全国47都道府県の被爆者団体から各都道府県を代表する樹木(主に果木)が贈られました。
- ・各地から寄贈された樹木
昭和28年 アルゼンチン大統領夫人エバ・ペロン氏より、アメリカティゴ、アメリカサイカチの種子が贈られました。
昭和28年 「世界平和デー委員会」の中心的活動家であるアルフレッド・W・パーカー氏(米国オークランド市)が各国に呼びかけて寄せられた寄付により、ウメ、カキなどの果樹が贈られました。
昭和32年 広島大学森学学長が世界に呼びかけて贈られたものと、己斐植木組合が植えたメタセコイアが白神社前の道路両側にあります。
昭和33年 庄原市の七塚原実習農場よりトチノキが贈られました。
昭和36年 ハワイ公園委員会ジョージ・佐々木氏より400本のキョウチクトウ(白花)が贈られました。
昭和46年 香川県小豆島地田町長より平

22 昭和26年9月2日付中国新聞「広島にアルゼンチン公園」ペ大統領夫人の来広で具体化」9月23、24日ごろの門司港着三光汽船星光丸経由で手配 エバ夫人は今年中(1951年)を訪れることは確実と報じている。なお、さらに調べると1951年4月にアルゼンチン公園の提案が亜国日報から広島市に届き、広島からアルゼンチン公園の計画が発送されている。<https://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=26359> (中国新聞内広島平和メディアセンター)



23 マイクロフィルムを設置中



- 25 1952年新年号スペイン語で謹賀新年と大統領府からペロンとエビータのスペイン語のメッセージが掲載。日本語訳が添えられている。（在アルゼンチン日本人会内日系社会史料館）



- 26 記事発見に喜ぶ筆者は平和の折り鶴でセイボの記載箇所を印す。見出しは「広島にアルゼンチン公園」 亜国原産の種子四十種が届き” 念願かなう” と喜ぶ濱井市長



28 この大木ヤシはアルゼンチン原産の種子40種の一つだろうか。



29 在りし日のアメリカサイカチ 竹屋小学校の子ども達手作りの看板がある。アルゼンチンのマメ科のアルガローボに近い印象があるが正確には不明
(2022年広島市渡部正明氏撮影・提供)



参考文献リスト

- アルゼンチン日本人移住史編纂委員会・在亜日系団体連合会（FANA）（2006）『アルゼンチン日本人移民史 戦前編・戦後編（日本語版）』ブエノスアイレス
- 亜国日報（1950-1954年）『マイクロフィルム』
- 賀集九平（1956）『アルゼンチン同胞五十年史』
- 在亜日本商工会議所（1998）日亜修好100周年 記念誌『日亜半世紀』ブエノスアイレス
- 中国新聞
- El Litoral（アルゼンチンの新聞）
- Clarín（アルゼンチンの新聞）
- 月野楓子（2016）「在亜邦人による『救済活動』の展開 — 第二次世界大戦後のアルゼンチンにおける沖縄移民の組織形成」『法政大学国際文化学部論集』第17号 https://hosei.ecats-library.jp/da/repository/00013337/ibunkaronbun_17_tsukino.pdf
- 平和大通り樹の会・広島市竹屋公民館（2019）『平和大通りの樹』
- 広島市ホームページ
- <https://www.city.hiroshima.lg.jp/>
- 広島ピースメディアセンター ホームページ
- <https://www.hiroshimapeacemedia.jp/>
- Sanchís Muñoz, José R.（1998）『Japón y la Argentina』, Editorial Sudamericana
- どうする倒れる木対策（2024）
- <https://kokoro2016.cocolog-nifty.com/shinkokoro/2024/06/post-766a7c.html>
- エビータのアメリカデイゴの花（2019）
- <https://blog.goo.ne.jp/wakaran0918/e/b59ee57713a341181a1741e6105e4ce1>
- アメリカデイゴ - 広島市中区鶴見町 「平和大通り」緑地帯（2015）
- <https://blog.goo.ne.jp/wakaran0817/e/ef5cecdce308fe929f95deb369b99065>
- はじめて、鶴見橋のアメリカデイゴの花を見に行きました。（2014）
- <https://eikoblog.jugem.jp/?eid=703>

平和と友情のアルゼンチンの日系社会からの種「エビータの木」年表

1951/4/7 アルゼンチンの亜国日報社宮地勝夫氏から広島中国新聞に連絡「アルゼンチン公園」計画の提案

1951/4/11 広島市から公園計画図や造園希望文などを発送

(アルゼンチン・ブエノスアイレスの「亜国日報」編集者の宮地勝夫氏から「親善のため広島にアルゼンチン公園を建設したい」と中国新聞社に便り。11日、広島市が公園計画図や造園希望文などを発送 <https://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=26359>)

1951/5月 ペロン大統領夫妻と日系社会の皆さんが大統領府で謁見 贈り物などがなされる。

日時不明 アルゼンチン農務省に計画図や希望文が到着し、これにより適切な植物種が選定される。そしてこれをエビータから贈ることにするで一致。約40種と定められ、日本の春の3月ごろまでまくことが推奨される。そのため、

日時不明 採取した種を農務省が宮地勝夫氏に渡す。この時期までに採取できなかったものは後に送ることにする。当時は郵便事情などもあることから亜国日報側から船に頼んで送るため、星光丸により門司港経由で送る

1951/9/2 中国新聞掲載「広島にアルゼンチン公園」ペ大統領夫人の来広で具体化」9月23、24日ごろの門司港着三光汽船星光丸経由で手配 エバ夫人は今年中(1951年)を訪れることは確実と報じている

1951/9月末 アルゼンチンからの種が日本着、その後広島中国新聞に到着

1951/10/2 広島中国新聞の渉外担当者から広島市長に手渡しされる。

1951/10/3 中国新聞掲載「届いたアルゼンチンの種子 念願かなうと濱井市長大喜び」アルゼンチン公園に言及

ブエノスアイレス市の「亜国日報」社長宮地勝夫氏から中国新聞社に届いたアルゼンチンの種子40種を広島市に手渡す <https://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=26365>

1952/1/2 亜国日報掲載 これまでの経緯を説明 3月に市営育苗園で種がまかれ、将来は17町歩のアルゼンチン公園建設予定

同じ種が東京大学と京都大学で種が育てられることになっており、愛知の安城農林高校の五十周年記念にまかれる

1952/7/26 エビータ死亡

1952年に到着したセイボ、アメリカサイカチをはじめアルゼンチンからの種40種が育苗される？

その後平和大通りに植えられる

平和大通りの樹木の会では1953年にエビータが寄贈と記載

1955/9/21 ペロン大統領第一任期終了